

COP10正式サイドイベント

食べて考える、 外来種ワークショップ

～日本の外来種問題とその対応～



生物多様性条約第6回締約国会議での「外来種に関する指針原則」などを受けて、わが国では侵略的外来種の生態系等への被害を防ぐため、「外来生物法」を制定し、平成17年6月から取組を実施してきました。
COP10の議長国として、また生物多様性のホットスポットである責任のある国として、わが国の取組事例を、世界に発信したいと考えています。**外来種(ブラックバスパーガー:100食限定)を食べながら**、お聞かせください。

第1回/10月20日(水) 13:15～14:45 会場: Room232 名古屋国際会議場2号館3F

テーマ:外来生物法、根絶に向けた計画的な防除の取組み

発表1 「『外来生物法』の制定とその運用について」 牛場雅己(環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室)

発表2 「根絶に向けた計画的な防除I(哺乳類:ジャワマンゲース等)」 山田文雄(独立行政法人森林総合研究所)
池田透(北海道大学)

発表3 「根絶に向けた計画的な防除II(両生・爬虫類:グリーンアノール等)」 戸田光彦(財団法人自然環境研究センター)

第2回/10月21日(木) 18:15～19:45 会場: Room232 名古屋国際会議場2号館3F

テーマ:多様な主体による防除、産業との調和、非意図的導入との戦い

発表4 「多様な主体の参画による防除の事例(魚類:オオクチバス等)」 中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)

発表5 「農業との調和(昆虫類:セイヨウオオマルハナバチ)」 五箇公一(独立行政法人国立環境研究所)

発表6 「非意図的導入との戦い(昆虫類:アリ類)」 五箇公一(独立行政法人国立環境研究所)

【主催】環境省 自然環境局 野生生物課 外来生物対策室

COP10正式サイドイベント

食べて考える、外来種ワークショップ

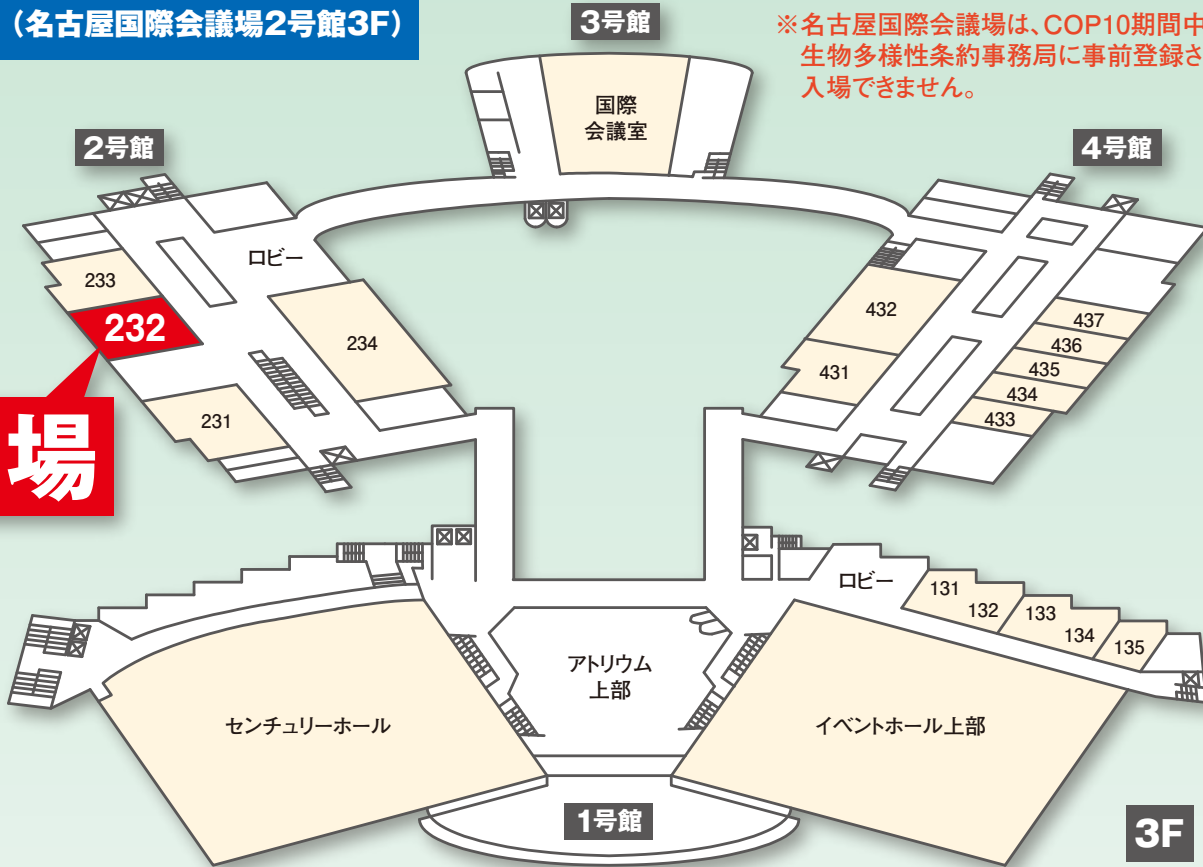
～日本の外来種問題と其の対応～

会場案内

Room232

(名古屋国際会議場2号館3F)

会場



※名古屋国際会議場は、COP10期間中、生物多様性条約事務局に事前登録された方以外は入場できません。

発表者プロフィール

牛場 雅己 (うしば まさき)

環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室長。環境省では、国立公園の計画・管理、自然とのふれあいの推進を担当するとともに、阿蘇くじゅう、中部山岳国立公園の現地管理に従事。また、林野庁では森林計画行政、長崎県では自然環境課長として地方環境行政を経験。平成21年7月より現職。

山田 文雄 (やまだ ふみお)

森林総合研究所上席研究員。専門は野生動物保護管理学、哺乳類学。マングースなどの外来哺乳類の対策研究、アマミノクロウサギやトゲネズミの希少外来種の保全研究に取り組む。日本哺乳類学会保護管理専門委員(外来動物対策作業部会)、世界自然保護連合(IUCN)種の保存委員会外来生物専門部会とウサギ類専門部会の委員、環境省の外来・希少種の委員などを務める。

池田 透 (いけだ とおる)

北海道大学大学院文学研究科地域システム科学講座教授。専門は保全生態学、野生動物管理学。アライグマをはじめとする外来哺乳類の生態・行動と派生する諸問題、及びその対策を研究テーマとする。日本哺乳類学会哺乳類保護管理専門委員(外来動物対策作業部会長)、日本生態学会外来種問題検討作業部会、世界自然保護連合(IUCN)種の保存委員会外来生物専門部会委員などを務める。主な著書に「外来生物が日本を襲う!」(監修)、「外来種ハンドブック」(共著)など。

戸田 光彦 (とだ みつひこ)

財団法人自然環境研究センター主席研究員。理学修士。専門は動物生態学、爬虫両生類学。共著書に「日本の外来生物」(平凡社)、「外来種ハンドブック」(知人書館)、「これからの両棲類学」(裳華房)、「野生動物保護の事典」(朝倉書店)などがある。ライフワークとして金沢城のモリアオガエルの個体群動態を25年間にわたり調査してきた。2001年より沖縄県八重山諸島で、2004年からは小笠原諸島で、グリーンアノール、オオヒキガエル、シロアゴガエルなど外来の両生類・爬虫類の生態と防除について研究している。1964年富山県生まれ。千葉県松戸市在住。2児の父。

中井 克樹 (なかいかつき)

滋賀県立琵琶湖博物館研究部生態系研究領域主任学芸員(環境保全復元学担当)。外来生物に関しては、オオクチバス、ブルーギルの繁殖生態の研究と、それを利用した防除技術の開発や、農業用水施設におけるカワハリアライグマ対策に取り組んでいる。日本魚類学会自然保護委員会(外来魚問題検討部会)委員、日本生態学会外来種問題検討作業部会、同近畿地区会自然保護専門委員会委員などを務める。

五箇 公一 (ごか こういち)

国立環境研究所環境リスク研究センター主席研究員。1965年富山県生まれ。1988年京都大学農学部卒業、1990年京都大学大学院昆虫学専攻修士課程修了、1990年宇部興産株式会社農薬研究部、1996年京都大学博士号(論文博士)取得(農学)、1996年国立環境研究所、現在に至る。主な著書に「クワガタムシが語る生物多様性」(単著)、「リスク学事典」(共著)、「ダニの生物学」(共著)、「外来種ハンドブック」(共著)、「生態学から見た野生生物の保護と法律」(共著)、「環境科学 人間と地球の調和をめざして」(共著)、「生態学入門」(共著)、「いきものがたり」(共著)など。専門はダニ学、生態学、集団遺伝学。